

## 平成26年度 第5回 経営協議会議事要録

日 時 平成27年1月19日(月) 14:00～15:35

場 所 事務局第1会議室

出席者 三村学長，小田部委員，久保田委員，鈴木委員，館岡委員，種田委員，  
中原委員，藤井委員，柳生委員，伏見理事・副学長，尾崎理事・副学長，  
袖山理事，影山理事，佐川人文学部長，生越教育学部長，折山理学部長，  
馬場工学部長，久留主農学部長

欠席者 宮下委員，山口委員

同席者 増子監事，馬場監事，米倉副学長，太田副学長，佐藤学長特別補佐，  
羽瀧学長特別補佐，内田学長特別補佐，木村学長特別補佐，  
大塚執行部スタッフ，原口執行部スタッフ，総務部長，財務部長，  
学務部長，学術企画部長，総務課長，人事課長，労務課長，財務課長，  
学務課長，企画課長，監査主幹

### 議 題

#### ・審議事項

- 1 国立大学法人茨城大学教職員賃金規程の一部改正について
- 2 国立大学法人茨城大学非常勤職員賃金規程等の一部改正について
- 3 中期目標・中期計画の変更について

#### ・報告事項

- 1 平成25年度自己点検評価書について
- 2 最近の国際化の動向について
- 3 平成26年度補正予算(案)について
- 4 平成27年度茨城大学予算(案)について
- 5 平成27年度予算編成に係る今後の進め方について

#### ・討議事項

- 1 地方創生に関する取り組みについて

### 配付資料

- 資料 1 : 教職員賃金規程の一部改正について(骨子)(案)
- 資料 2 : 非常勤職員賃金規程等の一部改正について(骨子)(案)
- 資料 3 : 中期目標・中期計画の変更について
- 資料 4 : 平成25年度自己点検評価書について
- 資料 5 : 最近の国際化の動向について
- 資料 6 : 平成26年度補正予算(案)について

- 資料 7 : 平成27年度茨城大学予算（案）について  
資料 8 : 平成27年度予算編成に係る今後の進め方について  
資料 9 : 地方創生に関する取り組みについて

## 議 事 概 要

### I 議事要録の確認

学長から、平成26年度第4回経営協議会の議事要録については、既にホームページに公表済みである旨報告があった。

### II 審議事項

#### 1 国立大学法人茨城大学教職員賃金規程の一部改正について

学長から、今年度の人事院勧告に依拠した、教職員賃金規程の一部改正について、審議願いたい旨提案があった。さらに、人事課長から、今回の教職員賃金規程の改正については、人事院規則の改正通知を受けて、基本給の調整額を見直すものである旨、資料1に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり改正することが了承された。

#### 2 国立大学法人茨城大学非常勤職員賃金規程等の一部改正について

学長から、今年度の人事院勧告に依拠した、非常勤職員賃金規程等の一部改正について審議願いたい旨提案があった。さらに、人事課長から、事業年度単位で労働契約を締結する非常勤職員等の賃金についても、常勤職員と同様に改定等を行うものである旨、資料2に基づき説明があり、審議の結果、提案どおり改正することが了承された。

#### 3 中期目標・中期計画の変更について

学長から、中期目標・中期計画の変更について審議願いたい旨提案があった。さらに、太田副学長から、平成26年度「地（知）の拠点整備事業」が採択されたことに伴い、中期目標・中期計画を変更するものである旨、資料3に基づき説明があり、審議の結果、提案どおり変更することが了承された。

### III 報告事項

#### 1 平成25年度自己点検評価書について

#### 2 最近の国際化の動向について

上記1～2の報告事項については、事前に資料を送付し説明を省略したことから、意見・質問の有無について確認した結果、特に質問等はなかった。

#### 3 平成26年度補正予算（案）について

財務部長から、平成26年度補正予算（案）について、資料6に基づき報告があった。

#### 4 平成27年度茨城大学予算（案）について

財務部長から、平成27年度茨城大学予算（案）について、資料7に基づき報告があった。

#### 5 平成27年度予算編成に係る今後の進め方について

財務部長から、平成27年度予算編成に係る今後の進め方について、資料8に基づき報告があった。

### IV 討議事項

#### 1 地方創生に関する取り組みについて

学長から、「まち・ひと・しごと創生法」の成立及び「長期ビジョン」、「総合戦略」の閣議決定を受けて、茨城県が設立した「県まち・ひと・しごと創生本部」への企画提案及び事業実施に大学として積極的に協力していきたい旨、資料4に基づき説明があり、地方創生に関する本学の取り組み等について、学外委員の皆様からご意見を頂いた。

#### 【主な意見】

- 前回の経営協議会で、各委員に対して大学改革に対する全体インタビュー質問項目の回答を求められて回答したが、大学の取り組みにどのように活かされたのかについて伺いたい。
- 現在取りまとめ中であり、現時点では6件ほど回答を頂いている。大学改革及びCOC事業等については、建設的なご意見、また、課題も頂いているが概ねご理解を頂いているという状況である。さらに、大学改革のためには、教員の活力を引き出す取り組みも重要という意見があった。
- 地方創生について、人口減少は避けて通れない問題であり、茨城県では、特に水戸以北の人口減少問題をどうするかというのが課題である。基本的には今までやってきたことの延長線上で考えればよいのではないかと。国が主導しているからどうこうではなく、茨城県、茨城大学が出来ることは限られており、茨城大学にも長所はいっぱいあるわけで、それを活かして地方創生に関わればよいのではないかと。日本でも有数の原子力施設がある茨城県で、原子力の分野で地域活性化に関わっていく。また、鹿島臨海工業地帯とか日立製作所とか茨城県が培ってきた地域資源もある。さらに、農業についても全国有数の生産量を誇っていることから、茨城県の強み、さらに茨城大学の強みを活かして関わっていけばよいのではないかと。ジオパークなどもおもしろいのではないかと。
- 大学コンソーシアムについてはおもしろいと思うが、はたして大学だけで取り組む問題なのか、地方自治体或いは企業も交えて対応する必要があるのではないかと。まず、雇用が創出されないことには地域への人の定着はない訳であり、如何に雇用を拡大していくかということが重要である。国の政策としての企業の地方への分散等、大きな取り組みをしていく中で、茨城県がそういう状況になってきたときにどう対応するか、大学だけでは雇用の創出に繋がっていかないわけで、教育機関としてどのように関わっていくかが重要である。
- 茨城県では創生本部を立ち上げ、早速、総合戦略を作るための有識者会議が設置された。様々な方が参加される中で、本学にも参加要請があり、米倉副

学長に委員に出させていただいて、全体の大きな議論の中から、大学が担える部分を持ち帰るということを考えている。

- 茨城に住んでいる人はそれなりに満足度が高いわけですが、外から見ると茨城の魅力度は低いと見られている。茨城県も知事が本部長になり茨城県全体の良さをPRしていこうとしており、その中で大学に何ができるかであり、良い点をPRしていくことが必要である。また、茨城の歴史と文化を学生に教えて、茨城の良さを伝えるという工夫を全学的にすべきであると思う。グローバル高専モデル校として、茨城高専は明石高専とともに文科省が認めた高専である。特に学生への国際化の取り組みが評価されて選ばれたものと思う。今後、コンソーシアムを結成するということなので、そういったところも参考に出来るのではないかと考える。
- 茨城の良い点や歴史・文化、及び茨城に対する理解をどのように深めるかということで、COC事業の一環として、今年4月から「茨城学」という教養科目を1年生全員に受講させることになっている。
- 「茨城学」については、平成27年度の入学者については必ず履修することになる。茨城大学に入学して茨城を知らずに卒業はさせないというコンセプトである。授業の半分は大学の教員が担当し、残り半分は自治体の方などに講義をしていただく。内容としては、茨城の自然、歴史、産業を理解して地域を多角的にとらえていくということである。現在、県内出身者の入学比率は約45%であり、残りの約55%や留学生についても茨城県に関心を持ってもらう。或いは、茨城県を通じて地域・地元に戻ったときに役立つ人材になって欲しいと考えている。授業方法としては、毎回、COC事業の専任教員が講義をコーディネートし、そこにゲストの講師をお呼びする。毎回90分話を聞くだけでは理解し、興味を続けることは難しいので、毎回、40分位でポイントを絞った話をしていただいて、その中で学生自身に課題を投げかけ、その課題を毎回考える。そして、他の人はどう考えているのかについて、隣の友達とディスカッションし、その上でさらに、講師の先生ともディスカッションする。来年度からアクティブラーニングを進めていくが、全員が参加するような授業においてもそういうことをやっていく。さらに、実際地域に出て行って地域の課題に触れて、自分自身が地域に役立つようになるためのPBL授業というものがあるが、いきなり地域に行けるものではないので、その裾野を広げていきたいと考えている。そこで地域に関心を持った上で、地域に出て行ってニーズや質が上がるようにしていきたい。
- 本学では、「世界展開力強化事業」と「地（知）の拠点整備事業」が採択されており、茨城のことを知り茨城が持っている良いところ、特性を知って、それを世界に繋げていくという2つの要素を結びつけていくと、地元のこともよく分かるし、地元を理解することがこれからの世界を考える上でどういう役割を果たすかについても考えられるような教育を考えている。
- 大学から提案する、3大学+1高専によるコンソーシアムの構築についてはしっかりやって頂きたい。茨城県でも創生本部を立ち上げたが、今までもちゃんと前向きに議論されてきたかというところがあり、この機会に、ここで課題の洗い出しをしてしっかりと議論をしていかないと、1つ1つのテーマが中途半端に終わってしまうのではないかと考える。プライオリティーを付けて、当面何が必要なのか、中期的には何が必要なのかということについて、そこでしっかり議論していただきたい。地域連携ネットワークを強化する部

分については、我々としても前向きに対応していきたいと考えている。また、2020年までに達成すべき重要業績評価指標については、後から付いてくる話であって、これを最初から目指してやっつけようとするとおかしなことになるので、先ずはしっかりテーマを決めて取り組むことが必要ではないかと思う。

- 今回のこの問題提起は、私たちのものの考え方、生活スタイルそういうことを大きく変えていくというきっかけになってくれればよいと思う。戦後、豊かになるために全国一律の画一化されたそういう仕組みというのが定着してきて、それなりに技術的な場面とか、製品の場面では極めて優秀な状況を作ったが、残念ながら地域の文化とか地域の伝統とか、地域に生きることが非常に貧弱になってしまった。そういう中で今私たちは、このような切り口の場面に立って、これからの日本を考えていくことになるんだろうと思う。その時に、ヨーロッパでは大学の果たしている役割がものすごく大きい。ところが日本の場合は、東京とか大阪とか京都の辺りの大学は大きいかも分かりませんが、茨城を始めとして地方で大学はどのような役割を果たしているのかなかなか見出せないし貧弱である。大学は地域の顔であり、地域でこのような役割を果たしているということを県民に打ち出さなければならない。そのためには、大学で研究に携わっている先生が自信を持って、何を世に問いたいのかという研究成果、研究の姿を見せる必要があると思うが、残念ながらそれが見えていない。そういう流れが見えてくれば、行政、経済団体、学校も含めて協議できる場を作っていく中で、大学が哲学を持って地域をリードしてもらいたい。今まで学長が取り組んできたことについてはこれからも進めていただき、大学をもっと表に出していただきたい。また、高校と如何に連携を図るかについても考えていただきたい。
- 昨年、12月22日に中教審の答申が出された。その中では、高等学校教育、大学教育さらには、大学入学者選抜を一体的に改革することがうたわれている。大学改革については、平成24年6月に大学改革実行プランが出されて国立大学全てが一律一様に大学改革を行う旨が示された。社会からの要請に応えるような産業界も含めて人材育成の強化ということが言われている。各大学が競って大学改革を行っている中で、本学も昨年12月4日に大学改革構想を文科省に説明し、今月22日には、理工学改組について文科省に説明を行うことになっている。その中で、単に大学改革だけではなく、教育システム、教育制度の見直しの議論もあるようだが、大学に近接している高等学校と強く連携を取りながら、大学改革を行わなければ、独りよがりの改革になってしまう。高等学校の教育の改革と併せてやると同時に、大学選抜についても変えなくてはいけないというものである。新しい入学者選抜については、達成度テストと言うことで、基礎レベル、発展レベルのテストを毎年度複数回実施するということが言われて、高等学校にアンケートを採ると、2つの試験が全国で複数回実施されるということになれば、高等学校の授業及び活動が阻害されるということで、70%位の反対がある旨のアンケート調査結果があった。少しはトーンダウンしているようだが、今の中学1年生が高校3年生になる平成31年度に、高校生の学力評価テストを導入する。平成32年度入試においては、現在の大学入試センター試験に変わる、大学入学者学力評価テストを導入する予定になっている。そういう中で、学力偏重の合否判定ではなく、受験生の知識だけではなく、知識を組み合わせ活用

する力、課題解決力、思考力、判断力、表現力を見る。各大学では、高校生の大学入学意欲、適正を総合的・多面的に評価するよう提言している。それにどう対応していくか、従来の面接という形で実施する場合、数的に厳しいものがある。高校の3年間の学業成績だけではなく、部活動、ボランティアを含めた活動を、学修カルテやポートフォリオという形で履歴として残し、3年間の活動履歴をきちんと評価するようなシステムを導入しないと受験生、高校生の特性を多面的に評価するのは難しい。それらを考える機会として、3月20日に高大接続改革シンポジウムの開催を予定しており、高等学校関係者にも集まっていただいて、大学で取り組んでいる教育の質的転換の講演の後、パネル討論会も計画しているので参加いただきたい。

- 少子化が極端に進む時代で、この学校に是非入学したいという者をどのように選抜するか、地元枠を作るというのも結構であるが、その場合の選抜方法をどうするか、日頃からの高大連携が重要である。
- 大学入試改革をするにしても、大学の中だけで進めるのではなく、高校の先生方も含めて一緒に議論することが重要である。高校教育がうまくいき、大学教育でさらに延びていくというような工夫をしたい。
- 大学が取り組もうとしていることについては、基本的に賛成である。基本は少子化の中でも教育が大事になってくると思う。茨城大学の役割として、教員養成の中心的な役割を果たしていただけてきた。今後10年間、茨城県の教員は大量退職の時期を迎えており、現在でも教員は足りない状況が続いている。今後、教育学部に限らず、人文学部、理学部等の地元の学生の教員志望者を増やしていただければありがたい。絶対数としての教員も足りない状況で、定年後65歳まで、再任用制度を活用しようとしている状況である。人口減少という観点から、市としても対策を講じているが、なかなか増えない状況である。茨城大学の学生にも地域に入ってきて、いろいろな活動をしていただけており、若者目線で若者の思考で地域活性化の提案を頂けるので、今後も市町村と大学が共同して、若者が定住できるような取り組みを、自治体としてもやっていきたいと考えている。
- 人を集める流れを作っていこうと言うことだと思うが、魅力がないところには人は集まらないし、無理にやってもうまくいかないと思う。茨城県や茨城大学の魅力が伝わっていないところがまだまだあるので、魅力を発信していくことは非常に大事である。中期計画などを見させていただいて、それが着実に実行されれば、茨城大学も魅力的になるという感じはしている。今までのものは、中途半端に終わっているものが多かったように感じている。敢えて言えば中期計画をきちんとやるのが、茨城大学の魅力発信に大事だと思っている。中期計画の中にも地方との関わりというのも十分にうたっており、基本的にはそういうことをきちんとやることにつきると思う。別な視点で見ると、人を集めようとするところにはばかり目がいてしまいがちだが、外から見たらどういう風に見えるのか、ということが発想の基本にあるのもっと良くなるのではないかと思う。外国人から見て茨城大学の良さ、茨城県の良さが見えれば、我々自身ももっと自信が付くし、いろいろな方策も立てられると思う。国際交流事業や、それに関連した新しいことを考えていただければ良いのではないかと思う。大学からの提案事業で、インターンシップについて、自分の経験では、窓口を開いて新しい企業を開拓してお膳立てをしても、学生がなかなか参加してくれなかった。学生の意識改革をする必要

があるのではないかと感じた。また、女性の視点から見た内容が入ると、もっと良い計画になるのではないかと感じた。

- 茨城大学で一番大切なことは、地方にあって教育の拠点であり、研究の拠点であり得ることだと思う。ホームページに先生方の受賞等の研究成果が掲載されており、その積み重ねが大事であって、研究面でもがんばっていると思っている。一方で、茨城県に存在するメリットを活かすことが重要で、茨城県は農業、工業、水産業、研究拠点と、いずれにおいても他の地域と比べても恵まれた地域にある。それを活かして、従来の教育研究に加味していくような活動をする中で、他の地域にも優る教育研究拠点到成長していくのではないかと思う。高大連携に関しては、教育全体の問題だと思うが、今までの日本の教育として、知識の習得が最優先で、知識を有して何でも知っているということが、学力の評価で一番大切なことで、社会に出ても役に立つであろうという前提で教育の重点がそこに置かれていた。その反省点として、問題解決能力、研究活動においては協調性を持って研究を進める、また、独創的な創造性を発揮するとか、そういうことを教育の主眼に置いたり、試験の時にそれを評価できるような設問を設けると言うことが、これからの日本の教育システムの中で、大学だけではなく、小・中・高等学校から、勉強以外の能力についても評価が出来るような成熟した社会になって行くと思う。大学としても、知識を習得させるだけではなく、人間形成というものについても、意を汲んでいただければよいと思う。
- 本日は、「地方創生の取り組みについて」というテーマで意見を頂いたわけですが、強く感じたのは、茨城大学がどういう役割を果たすのか、自分たちの存在を如何に社会に打ち出すのかということについて、いろいろな方面からご意見をいただいたことである。そういうことが茨城の魅力や地方創生の力になるということだと思う。我々自身の今までの実績や、強み、長所というのをしっかり意識して、「何を研究して何を世に問いたいのか」という意見に添えるように努力していきたいと考えている。学長として、今まで改革案策定と内部の制度改革など、内を強めると言うことをやってきたが、その成果を早く世の中に出る形にしたい。外に向かって成果を出すために、今後一層力を入れていきたいと考えている。

## V 監事からの意見について

本日の討議事項「地方創生に関する取り組みについて」は、タイムリーなテーマで、外部委員から出されたご意見を有効に活用して、本学の地方創生の取り組みにも活かしていただきたい。

## VI その他

### 1 経営協議会会議資料の公開について

学長から、経営協議会会議資料の公開について、確認があった。

### 2 次回経営協議会開催日

平成27年3月23日（月）14時00分から